

# そのギモしお答えします

本願寺新報八月一日号に川柳形式で仏事の心得（仏事の基本）にお答えする記事がありました。分かりやすいものでしたので、数回に分けて紹介します。

（全文そのまま転載）

## 式章・念珠は大切に

たまに見る  
式章逆の  
上がり藤

式章の「上がり藤」は、まさに「仏事あるある」ですね。皆さんは何のことかすぐにわかりましたか？

式章は僧侶が着ける「輪袈裟」に似ていて、首からかけます。仏事の時には、お念珠

を持って、式章を着けるのが、門信徒の正装です。

式章はもともと、「肩衣」という礼装を省略したもので、着衣は、肩までの短衣、つまり袖なしの衣服で、江戸時代には門信徒が仏前に参拝する際に着物の上に着用していたようです。それが洋服の普及によって、洋服の上からでも着用することができるようになりました。

式章をかける時に注意したいのは、首の後ろにくる「下がり藤」のご紋（ない場合は、縫い合わせてある方が外側になります）。左右逆にかけてしまうと、ご紋が逆さまになる。「上がり藤」となるので、なっている人がいたら、そっと教えてあげましょう。

お念珠や式章は、床や畳、イスの座面などに直接置いたりせず、大切に扱います。またトイレに行くときにも、

外して、粗末にならない場所（机の上やトイレの前の衣紋掛けなど）に置いてから行きましょう。

## お焼香を正しい作法で

焼香は  
おしいただかず  
ひとつまみ

お葬式や法事に参拝すると



▲馬原 隆さんのリンゴが見事に実りました。（紅玉）

「お焼香をどうぞ」と促されることあります。「どうだったかな」とついつい、まわりをキョロキョロ。でも、お香を額におしいただいてから香炉に入れている人や、二回三回といれている人もいてみんなバラバラ。「何が正しいの？」なんて経験ありませんか。

焼香など仏事の作法は宗派によっても違う場合があります。ぜひ本願寺派の作法を覚えて、まわりの人にも自信を持って伝えてあげましょう。

- ① 香炉の置いてある机の一、二歩前で一礼します。
- ② 机まで進み、座って、お香を一回だけつまんで、そのまま香炉に入れます。
- ※ お香を額におしいただくことはしません。
- ③ 合掌・礼拝します。
- ④ 礼拝が終わったら、立ち上がり、一、二歩下がって一礼します。

立って焼香する時は、「座る」「立ち上がる」の動作を除けば同じ作法になります。

（「作法編」）

# 法語の世界

## 《原文》

仏法に厭足なければ、法の不思議をきくといへり。前従上人（実如）仰せられ候ふ。たとへば世上にわがすきこのむことをばしりてもしりても、なほよくしりたう思ふに、人に問ひ、いくたびも数寄たることをば聞きても聞きても、よくききたく思ふ。仏法のことよく聞きたび聞きてもあかぬことなり。しりてもしりても存じたきことなり。法義をば、幾度も幾度も人に問ひきはめまうすべきことなるよし仰せられ候ふ。

（『蓮如上人御一代記聞書』 二百二十四）

## 《現代語訳》

「仏法について聞き足りたということがなければ、それが仏法の不思議を信じていることである」という言葉があります。このことについて、実如上人は、「たとえば、世間でも、自分の好きなことは知っても知っても、もつとよく知りたいたいと思うから、人に問い尋ねる。好きなことは何度聞いても、もつとよく聞きたいと思うものである。仏法のこと、何度聞いても聞き足りることはない。知っても知っても、もつとよく知りたいたいと思うものである。だから、ご法義のことは、何度でも何度にも人に問い尋ねなければならぬのである。」と仰せになりました。

## 10月上旬秋参りのお知らせ

例年、10月から秋参りを始めます。10月3日からのスケジュール（予定）をお知らせします。なお、あくまでも予定です。葬儀や法事などが入りましたら変更することもあります。

### 記

10月 3日 (水)	協和・長崎、小切畑芋の八重、祇園町
10月 4日 (木)	祇園町、矢惣園上
10月 5日 (金)	丁子、中村、笠部
10月 11日 (木)	寺村、東光寺、中園
10月 12日 (金)	予備日

## 秋季彼岸会法要のお知らせ

ととところき  
勤行  
講師  
持参  
その他

九月二十三日（日） 午前十時

金光寺本堂  
正信念仏偈（草譜）六首引き  
住職 松井卓郎  
念珠・経本・門徒式章  
彼岸会法要は仏教婦人会の定例会になつております。会員の皆さまの参詣をお待ちしております。お揃いでお参りください。